

CIRJE Newsletter

東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センターニュースレター

No.32

2024 年 4 月

Center for
International Research on the
Japanese Economy (CIRJE)
Graduate School of Economics,
Faculty of Economics
The University of Tokyo

国際コンファレンス活動報告

日本経済国際共同研究センター（CIRJE）では、経済学研究科教員が開催する、海外からの研究者をお招きした国際会議を支援しております。今回は、2023 年度に弊センターの支援により開催された国際会議の中から、会議の概要について報告いたします。

JADE/CEPR/TIME/CIRJE Development Economics Conference

澤田康之・鈴木 綾（大学院新領域創成科学研究科）

2024 年 4 月 1 日 -2 日に、東京大学山上会館で、会館で開発経済学会、Centre for Economic Policy Research（CEPR）、Trinity Impact Evaluation Research Centre（TIME）と CIRJE の共催で最新の開発経済学に関するカンファレンスを開催しました。開催前日には London School of Economics の Oriana Bandiera 教授と Robert Burgess 教授両名による “The Wealth of People: from Individual Poverty to Macro Growth” と題したチュートリアルセッションが開かれました。翌日からの会議では、開会にあたって Harvard Kennedy School の Eliana La Ferrara 教授と小樽商科大学の松本朋哉教授から挨拶があり、その後長時間（40 分間）の発表論文 10 本と短時間（20 分間）の発表論文 7 本からなる 17 本の研究報告が行われました。そのうち 12 本は海外の大学や国際機関の研究者によるもので、日本国内の大学研究者からも 5 本の発表がありました。労働市場、ソーシャルメディアと政府の行動、ジェンダーと政治参加、歴史的データを使った現代都市の考察、社会規範の変化、衛星写真を使った経済活動の推計、森林保全と経済密度、ロヒンギャ難民流入の影響等、開発経済学における多岐にわたるトピックに関して多様なデータを用いた最新の実証研究が発表され、活発な議論が交わされました。開発経済学会の速水賞が神戸大学の山崎潤一講師に授与され、不破賞が東京大学の庄司匡宏教授に授与されました。二日間の終日にわたる対面開催の会議で、国際的な研究者ネットワークが構築され、会議は成功裏に終了しました。



集合写真・会議風景

CIRJE Newsletter

目次

国際コンファレンス
活動報告

客員研究者紹介

CIRJE
ディスカッション
ペーパーシリーズ

客員スタッフ

スタッフ

Navigating Commodities: Production, Markets, and Consumption in History

2023 年 11 月 18 - 19 日

東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）

小島コンファレンスルーム

山本浩司

「Navigating Commodities: Production, Markets, and Consumption in History」と題したシンポジウムを、2023 年 11 月 18 日から 19 日にかけて、東京大学本郷キャンパスの第 2 セミナー室において開催した。このシンポジウムは、米などの必需品からスクンクリームのようなより現代的商品に至るまで、様々なコモディティを専門とする歴史家たちを集めたものである。いずれの発表も、異なる時代や地域の文脈における商品の歴史が、狭義の「市場」を通して流通しながらも、広い意味で権力・知識・社会変化と密接に関わり合っていた様子を探求するものであった。経済史や経営史、文化史、帝国史、グローバル・ヒストリーなど様々なジャンルの史的研究を横断しながら多様な商品とそれを取り巻く世界を理解することができた。今回のシンポジウム開催にあたっては、当初の予想を超える 160 件以上の応募を受け、日本、アメリカ、ヨーロッパ、インド、イタリア、中国、マレーシア、香港など世界中の研究機関から、博士課程学生から研究員、教員に至るまで様々なキャリア段階にある 14 人の研究者を招待することができた。発表は、以下の 4 つのパネルを通して組織された：「Nature as Commodity: Plants, Sea, and Environment」、「Textiles and Transformations: From Local Craftsmanship to Global Markets」、「Consumable Commodities and Cultural Adaptations: Tea and Rice in East and Southeast Asia」、そして「Objectification and Representation: Commodities and Bodies in Social and Political Contexts」である。また、東京大学大学院情報学環・学際情報学府所属の久野愛教授によって、現代の日本とアメリカにおける美的感覚と資本主義の関係をめぐる歴史について、素晴らしい基調講演が行われた。2 日間の会議は、多様な商品に関する優れた研究を知り、今後の共同研究へと繋がり得るネットワーキングの場を提供した。二日とも、40 名近くの参加者に恵まれ、主催者、発表者、聴衆全てにとって有意義なものとなったといえるだろう。最後にコンファレンス支援をしてくださった CIRJE のスタッフに御礼を記して成果報告としたい。



集合写真

Tokyo Labor Economics Workshop: One-Day Conference

2024 年 3 月 8 日

東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）

第 2 セミナー室

Suk Joon Son, 川口大司

2024 年 3 月 8 日、東京労働経済研究会が東京大学で開催され、盛況のうちに終了した。ワークショップでは、教育、労働市場、健康についての洞察に満ちたセッションが行われた。午前中のセッションでは、学校選択のダイナミクス、教育におけるピア効果、子供の不平等など、重要な教育研究について掘り下げた。午後のディスカッションは労働市場のトピックに移り、工場の自動化、反スエットショップ活動、公的年金制度がそれぞれ地域の労働市場、賃金分布、短期死亡率に与える影響に焦点を当てた。関連する分野で活躍する研究者たちが一堂に会したことで、それぞれの研究に対するフィードバックや新しいアイデアの交換が活発に行われ、労働経済学の分野に大きく貢献した。

客員研究者紹介

当センターには、研究者のための複数のポジションがあり、各国から研究者にご来訪頂いております。特に「短期客員研究者」には、公益財団法人野村財団からのご寄付により、国内外から多彩な研究者をお招きしております。今回は、2023 度にお越し頂いた「客員教授」「短期客員研究者」の皆様、滞在時の活動内容をご報告頂きました。

客員教授

慶應義塾大学
藤原一平



青木浩介教授にお招きいただき、2023 年 4 月から 2024 年 3 月までの 1 年間、CIRJE に滞在させていただきました。

基本的には、週に一度、CIRJE の研究室で仕事をしていました。自分の研究室ではなく、CIRJE にある私物が何もないまさるな部屋での作業は、授業準備や研究費の申請、経費精算といった事務的なことから物理的に離れることができ、新しい研究アイデアを得られただけでなく、進行中の研究についても、新しい視点で考え直すことができました。「良いアイデアが浮かぶためには旅行に出かけるべきだ」と言われることがありますが、私にとっては、CIRJE での滞在は、丸の内線に乗って週に一度行くサバティカルのようなもので、その効果を存分に疑似体験できた滞在となりました。滞在中は、青木浩介教授との長年の課題であるマクロ経済学の執筆作業も進めました。当初、滞在中に校了する予定でしたが、章を書き終えていくスピードよりも、新しい章について思いをめぐらせるスピードの方が速く、なかなか収束が見えていません。しかし、普段の研究室に戻った今、改めてこちらに取り組んでいかなければと感じています。

Lund University

Mats Oolson



2023 年春に東京大学経済学部、CIRJE 海外客員として石原俊時教授にお招き頂く機会に恵まれました。これは、日常から解放される喜ばしいひと時でした。当時私はまだルンド大学の学部長を務めており、管理業務や教員への対応に非常に追われていました。研究面でも、東京での滞在はこの 10 年間で最も生産的な時期となりました。その成果は、18 世紀の田園地帯における産業革命を扱った優れたワーキングペーパーとなり、その後改訂を経て、先頃 Rural History 誌に受理されました。また東京での滞在では、新たな研究プロジェクトへの着想を得られ、結果として助成金申請にも成功しました。工業革命期における女性の賃金労働の減少というクラウディア・ゴールディン仮説を、スウェーデンの銅山と綿紡績の町ファールンでの家計単位の賃金データを用いて検証予定です。本申請は、2024 年 11 月にスウェーデン研究評議会より大規模な 4 年間の助成を獲得しました。更に、石原教授との議論から発展した別の研究アイデアとして、20 世紀のスウェーデンと日本における福祉制度の分岐の要因を探る比較研究があります。このアプローチにより、両大学間の更なる交流を促進する助成金も獲得しており、今後石原教授のスウェーデン訪問も予定されています。ですが、この滞在が生産的だっただけではありません。センターのスタッフに温かく迎えられ、ホストのご案内のもと、東京のきらめく都市生活に親しみ、その文化・食を存分に味わえたことは素晴らしい経験でした。

短期客員研究者

City University of New York
Todd Keister



2023 年 3 月から 5 月まで CIRJE を訪問する機会を頂きました。滞在中は、金融の安定性に関連する 2 つの新しいプロジェクトで研究を進めることができました。最初のプロジェクトは、金融危機時に政策立案者が銀行を救済する能力を制限する政策の有効性を研究するものです。この研究の予備的な結果は、このような政策が複数の均衡を生み出す可能性があることを示しています。2 つ目のプロジェクトは、投資信託やその他の「影の銀行」の運用ルールをどのように改革すれば、市場ストレスのある時期にこれらの機能をより安定させることができるかを研究するものです。後者のプロジェクトは CIRJE のマクロ経済学ワークショップで初めて発表することができましたが、そこで多くの示唆に富むコメントや提案をいただきました。東京大学の先生方との交流に加え、他の CIRJE 訪問者やセミナー講師の方々と多くの有益な議論をすることができました。また日本に滞在したお陰で、東京近郊の他の大学で研究セミナーを行ったり、京都大学で専門的な会議に参加したりすることができ

ました。全体的に、CIRJE での研究環境はとても充実しており、毎朝美しい本郷キャンパスに来るのは楽しい事でした。私の訪問を後援してくださった北尾先生に大変感謝しています。また、私の訪問を可能にくださった CIRJE の皆様にも感謝申し上げます。

Erfurt University

Carsten Herrmann-Pillath



野原慎司先生のお招きにより、6 月 28 日から 7 月 6 日まで東大に短期客員研究者として滞在し、日本の制度経済学の研究者たちと実り多いミーティングやワークショップを重ねました。我々は、気候変動という課題に直面する社会経済変革の差し迫った必要性について、アイデアや意見を交換しました。こうした日本からの視点は、制度改革に関する私の現在の研究にとって非常に刺激的なものでした。我々はさらに交流を深め、明治維新から 20 世紀後半までの長い世紀における資本主義的な変遷を超えた歴史的連続性の側面を含む、日本におけるポスト資本主義経済の設計に関する共同論文に取り組むことに合意しました。

CIRJE ディスカッションペーパーシリーズ

http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/03research02dp_j.html

当センターでは2つのディスカッションペーパーシリーズ（Jシリーズ：日本語、Fシリーズ：外国語）を刊行しており、2021年4月から2022年3月の期間で、Jシリーズ4件、Fシリーズ24件が刊行されました。発行されたディスカッションペーパーは上記のホームページからダウンロードすることも可能です。

客員スタッフ

当センターの重要な役割の一つに、海外からの研究者の受け入れと研究交流促進があります。国内外の優秀な研究者を様々な分野からお迎えして研究活動を行っております。下記のリストは2023年度に来訪された客員スタッフです（所属は在籍当時）。

客員教授

- 藤原一平 (2023.4.1 - 2024.3.31)
慶應義塾大学経済学部, 日本
- Mats Olsson (2023.4.1 - 2024.6.2)
Department of Economic History, Lund University, Sweden
- Dean R. Hyslop (2023.4.3 - 2024.6.30)
Motu Economic and Public Policy Research, New Zealand
- Elisabeth Koll (2023.6.1 - 2024.7.11)
Department of History, University of Notre Dame, USA
- Xavier Ragot (2024.1.4 - 2024.4.5)
Department of Economics, Sciencepo, France
- Shuichiro Nishioka (2023.6.12 - 7.25)
The John Chambers College of Business and Economics,
West Virginia University, USA
- Pui Tak Lee (2023.7.1 - 9.17, 2024.3.21-3.31)
Research Institute of Global Chinese and Area Studies,
Huaqiao University, China
- 宮本 亘 (2023.6.26 - 7.21)
HKU Business School, University of Hong Kong
- Pui Tak Lee (2021. 12.14 - 2022.1.14)
School of Modern Languages & Cultures, University of Hong Kong
- James Graham (2023. 10.7 - 10.13) * 野村財団・奨学研究員 *
Faculty of Arts and Social Sciences, The University of Sydney,
Australia
- Leslie Hannah (2023. 10.16 - 2024.1.8)
London School of Economics and Political Science, UK
- 中林純 (2023. 10.16 - 2024.1.8)
京都大学大学院経済学研究科, 日本
- 長津 十 (2023.12.15 - 2024.1.14)
Faculty of Social Sciences and Helsinki Institute of Sustainability
Science (HELSUS), University of Helsinki, Finland

短期客員研究者

- Sangeeta Pratap (2023.4.1 - 5.31)
* 野村財団・奨学研究員 *
Hunter College and Graduate Center, City University of New
York, USA
- Ken Daimaru (2023.6.1 - 6.30) * 野村財団・奨学研究員 *
Faculty of Humanities and Social Sciences, Université Paris
Cité, France

スタッフ

教授



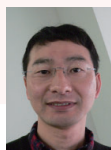
佐藤泰裕



下津克己



高崎善人



青木浩介
(センター長)



福田慎一

顧問

- 岡野貞彦 (経済同友会事務局長・常勤顧問) *9月30日迄
- 齋藤弘憲 (経済同友会事務局長・代表理事) *10月1日より
- 翁 邦雄 (大妻女子大学特任教授)
- 加藤淳子 (東京大学法学部・大学院法学政治学研究科教授)
- 清滝信宏 (プリンストン大学経済学部教授)
- 宮尾龍蔵 (神戸大学大学院経済学研究科・経済学部教授)

運営委員会

運営委員長

青木浩介 (センター長)

運営委員

粕谷 誠・澤田康幸・下津克己・谷本雅之・福田慎一

CIRJE Newsletter No.32

東京大学大学院経済学研究科附属
日本経済国際共同研究センター
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
tel +81-3-5841-5644 fax +81-3-5841-8294
<http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/indexj.html>